

プロジェクト名	島根発！アジア諸国からの口腔外科医育成により SDGs を実現する！ ～島根型地域医療連携を基盤としたクリニシャン・サイエンティストの育成～
代 表 者	歯科口腔外科学講座・管野貴浩・教授
達成に資する SDGs 目標	目標 1：貧困をなくそう、目標 3：すべての人に健康と福祉を、目標 4：質の高い教育をみんなに、目標 5：ジェンダー平等を実現しよう、目標 10：人や国の不平等をなくそう、目標 16：平和と公正をすべての人に、目標 17：パートナーシップで目標を達成しよう
プロジェクトの意義、成果及び波及効果	<プロジェクトの意義> 日本は世界有数の超高齢社会であり、2050 年には人口の約 3 分の 1 が 65 歳以上に達すると見込まれている。なかでも島根県は高齢化の進行が著しく、全国平均を上回る高齢化率を示している。さらに、医師・歯科医師の地域偏在という課題も抱えており、同県における地域医療の在り方は全国的にも注目されている。島根大学医学部附属病院はこれまで「地域医療と先進医療の調和」を理念に掲げ、地域医療連携を重視した取り組みを推進してきた。歯科口腔外科においても、県内歯科診療所、地域中核病院、島根県歯科医師会との緊密な協力体制のもと、一次から三次医療まで切れ目のない診療体制を構築してきた。このような歯科口腔外科領域における「<u>島根型地域医療連携</u>」は、<u>今後高齢化を追従するアジア諸国にとって先進的なモデル</u>となり得る。現在、日本の医療は欧米諸国と比肩し得る高度な医療技術を有するとともに、多くの発展途上国を含むアジア地域においては指導的役割を担っている。すなわち、<u>日本の医療は先進的な欧米と発展途上のアジア諸国の中間に位置</u>し、両者を橋渡しする役割が期待されている。 島根大学医学部歯科口腔外科学講座では、本学および附属病院の理念に基づき、地域医療連携と先進医療の双方を实践できる人材の育成を目的として、これまで臨床および研究の指導体制を整備してきた。その結果、本連携モデルを学んだ中国やベトナム、インドネシアの歯科医師・口腔外科医が帰国後に同様の体制を实践し、一定の成果を挙げている。さらに、島根大学医学部附属病院歯科口腔外科は、2025 年から<u>頭蓋顎顔面外科学領域の国際的学術団体である AO CMF の指定研修施設に認定</u>されており、本分野における国際的教育・研修拠点としての基盤も確立している。これらの実績を踏まえ、本モデルをより広くアジア諸国の歯科医師・口腔外科医に展開することは、<u>目標 1「貧困をなくそう」、目標 3「すべての人に健康と福祉を」、目標 10「人や国の不平等をなくそう」、目標 16「平和と公正をすべての人に」</u>の達成に資するものである。 さらに、島根型地域医療連携を担う歯科医師・口腔外科医の育成には、診療や手術技能にとどまらず、先進医療を理解するための基礎・臨床研究の素養や、地域課題を把握し解決へ導くマネジメント能力が求められる。すなわち、単なる臨床家ではなく「<u>クリニシャン・サイエンティスト</u>」としての資質を備える必要がある。クリニシャン・サイエンティストとは、臨床の視点に立脚しつつ基礎研究および臨床研究を实践できる人材であり、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）においてもその育成が支援されている。しかしながら、その体系的育成プログラムは未だ十分に確立されていない。そこで本プロジェクトでは、島根型地域医療連携を基盤として、歯科口腔外科領域におけるクリニシャン・サイエンティスト育成プログラムの構築を目的とした。したがって、本プロジェクトは前述の目標に加え、<u>目標 4「質の高い教育をみんなに」、目標 5「ジェンダー平等を実現しよう」、目標 16「平和と公正をすべての人に」、目標 17「パートナーシップで目標を達成しよう」</u>の達成にも寄与する点で重要な意義を有する。 <成果及び社会、本学の機能強化への波及効果> 本プロジェクトでは、前回採択期間の 2 年間において、当初計画した 7 編の研究論文をすべて計画通り掲載するとともに、計画外の成果も含め計 36 編の論文・書籍を公表し、研究面で当初目標を大きく上回る成果を達成した。さらに、人材育成の観点では、<u>日本口腔外科学会認定医 4 名、専門医 1 名を輩出</u>するとともに、<u>学位取得者 8 名（うち留学生 2 名、博士 6 名、修士 2 名）を育成</u>し、臨床と研究を両立するクリニシャン・サイエンティストの養成という

	目的を達成した。また、地域中核病院との連携による臨床活動および自施設データを活用した臨床研究を通じて、地域の歯科口腔外科医療の課題解決に寄与し、その成果は複数の学会賞受賞にも結実した。加えて、島根大学医学部附属病院歯科口腔外科が AO CMF の指定研修施設として認定されたことは、本領域における国際的教育拠点としての機能強化を示す重要な成果であり、本プロジェクトの有効性を裏付けるものである。これらの成果は、日本人のみならず留学生に対しても、母国で応用可能な人材育成モデルを提示するものであり、SDGs の目標 1、3、10、16 といった国際的課題の解決にも資するものである。 本プロジェクトがさらに発展・継続した場合、これらの成果を基盤として SDGs 達成への貢献を一層推進するとともに、医学部歯科口腔外科学講座および附属病院歯科口腔外科における教育・研究・臨床の統合モデルを明確に提示することが可能となる。加えて、本学の機能強化の観点からは、国際医療協力の推進、医学部および附属病院の教育研究機能の高度化、さらには他講座・他診療科におけるクリニシャン・サイエンティスト育成への関心喚起といった波及効果が期待される。以上より、本プロジェクトは島根発の持続可能な地域医療モデルを国内外に発信する基盤となり得る（別添資料参照）。	
実 施 体 制	担当部局名・職名・氏名	役割
	歯科口腔外科学講座・准教授・小林真左子	臨床研究指導
	先端がん治療センター/歯科口腔外科学講座・講師・辰巳博人	臨床研修指導
	歯科口腔外科学講座・講師・松田悠平	臨床研究指導
	歯科口腔外科学講座・助教・園山里江	臨床研修指導
	歯科口腔外科学講座・助教・宋本儒享	臨床研究指導
	薬理学講座/歯科口腔外科学講座・助教・森岡怜音	臨床研修指導